

# マザーハウス たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。

あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。

## 《 表紙 》

T刑 Y・Rさん

2017

# 6

月号

- 2 理事長挨拶
- 4 講演後アンケート
- 6 塀の中のたより
- 14 ささきみつおコーナー
- 15 Lovely DAYs
- 15 塀の外の花より
- 16 巷の花より
- 19 育児日記
- 19 行事予定

\*無題の文章には題名をつけさせていただきました。

\*イニシャルは、苗字・名前の順です。

このマザーハウスたよりは、公益財団法人日工組社会安全研究財団の助成より作成したものです。

インターネットのイラスト引用元：

Created by Elstudio - Freepik.com, Created by Freepik, Created by Irikul - Freepik.com,

Created by Kostolom3000 - Freepik.com, Created by Terdpongvector - Freepik.com

近々出所される方は、ご一報ください。  
スタッフ一同、社会復帰をお祈りしております。

イラスト、原稿  
大募集中です！

## 理事長挨拶



### 《 神様に捧げる = 人に与えることを 知らない人は、 自分の利益ばかり求めてしまう 》

今年も早いことに半年が過ぎようとしています、自分で納得できる活動が出来ていない状況です。自分自身、時間の使い方が下手であり、もっと上手く時間が使えるように学んでいます。

この半年で家族と食事をしたのがとても少なく、深く反省しています。どうしても会合やイベントがあるのが夜の6時頃からであり、参加するには犠牲があります。子どもたちには寂しい思いをさせており、申し訳ない気持ちで一杯です。これからは出来るだけ、子どもたちとの遊びの時間を取っていきたいと思っています。

でも、会合やイベントは、マザーハウスの活動のためには重要な事であり、大切な交わりです。

マザーハウスと関わって社会復帰した人たちが新しい人生を歩むために、色々と考えてアドバイスをしていますが、ほとんどの方が受刑中に自分と出逢っておらず、とても甘い考えでいます。特に、金銭管理や当たり前のことができずにいます。そして、自分のことばかり主張して、相手のことを考えることはしません。自分の利益ばかり求めているのです。神様に捧げること（人に与えること）を知らないのです。

その結果、社会復帰しても犯罪を犯し、刑務所に逆戻りしています。私にできることは、相手が気付き、自分を変えることを願うだけです。私がある人を変えることは出来ないのです。支援してくれるからいいや、と相手におんぶに抱っここの人は、ほとんど潰れるか、人を裏切ったり、だましてどこかに行ってしまう。



実際に、社会復帰して受け入れ、信じていた方が、事務所にあった現金を持っていったこともあります。その人には弁償してもらいましたが、その後、連絡もいただけない状況です。この行為は犯罪です。

その人がしっかり理解していればよいのですが、また、その方をサポートしている人も、この行為が犯罪であることをしっかり認識して関わるべきだと思います。そして、常識として、関係者に謝罪させるように話をするべきだと思います。自分の子どもだったらどう行動するでしょうか。それを考えればわかると思います。



### 《 感謝の心の実践 》

今回、マザーハウスと関わっている受刑者の方に送りました「回復プログラム」を実践した人と、そうではない人では、明らかに違いが出てきています。実践しない人たちは、少しの期間は社会で生活を送ることができますが、再び事件を起こして刑務所に行ってしまう。自分は絶対に戻らない、と手紙に書いてきますが、実践できないでいます。それは、自分を変えようとしない、あるいは、自分はもう大丈夫だと思い込んでいるのです。

実践している人は、手紙に、考えたこと、気づいたことを書いてきます。私が受刑中に必ず行ったことは、毎月、書籍の差し入れがあったら感想文を書いて相手に送っていました。どんなに少ない文章でも、読んで感じたことを書いて送っていました。社会復帰した時、その文通者がマザーハウスの支援者となり、様々な応援をしてくださっています。

これは、受刑者のみなさんに、感想文を送れと言っていただいているわけではありません。こういうことは、人に言われてからやるのではなく、自ら進んですることだと思います。そしてそれを実践できる受刑者は、社会復帰しても、再び犯罪を犯すことなく、社会に土台を築き、人から大切にされ、愛される人になり、人の為に行動する人になっていくと思います。何故なら、感謝の心を、口先ではなく実践（行動）で示しているからです。その姿を見て、多くの人たちが支援してくださると思います。

私自身、キリスト教の関係者から様々なことを言われ、批判されます。でも、神様が一番よく知っています。言いたい人には言わせておけばいいと教えられました。

そのようなことを言う人は、自分では何もできず、決して支援もしてきません。妬みと嫉みなので、相手にしないことです。特に、金銭のことを根拠なしに疑われますが、会計士がおり、監事が検査して東京都に提出しているのです。それでも言われるのですから、何を言われてもよいと思っています。



### 《 最後に 》

先日、一般財団法人青少年問題研究会から原稿依頼があり、試験観察となった少年たちのことを書きました。

少年たちの回復には、「両親との関係」が重要だと思います。親が子どもと向き合っていないケースがとても多いです。その結果、非行に走り、警察にご厄介になるのだと思います。回復には、親との関係改善・修復が必要であると感じます。そのためにも、彼らと関わってくださる大人が必要であると感じました。

また、虐待を受けて育った子どもたちの回復には、とても時間が掛かります。受けた傷がとても大きいのです。心に深い傷が出来ており、徹底した関わりと、深い愛が必要であると思います。とても人間には難しく、神様が介入してくださらないと難しいと思います。

最後になりますが、私がとても信頼しており、お母さんと思っているシスターがおられますが、今年、金祝となります。金祝は、初誓願から50年目のお祝いです。金祝式には、ミサの中で誓願の更新が行われ、金祝を迎えた姉妹とともに祈りが捧げられます。私もこのミサに参加させていただきました。

いつも私を助け、支えてくださっているシスターで、結婚を決めた時もとても喜んでくれて、私と妻と共に母のところと一緒にいき、妻の両親のところにも、私の父親代わりと二人で行っていただきました。子どもが生まれ、幼児洗礼を授けていただくときも洗礼式に参加していただきました。本当に感謝です。

### 《 募金ありがとうございます 》

今回、愛のプリズム宣教として、78,000 円の募金がありました。このお金で、「カトリック生活」を1年間、23名の受刑者に送ることになりました。支援してくださった皆様に、心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

引き続き、募金の受付をしておりますので、ご協力をいただければ幸いです。



### \* 編集局より \*

これまで、「塀の外のたより」として、出所者・支援者のお手紙をまとめて掲載することが何度かありました。

しかし、前者は刑務所や出所後の生活について書かれることが多く、後者は文通や受刑者の方への思いについて書かれることが多く…という具合に、お手紙の内容は異なるので、下記のように別々のコーナーに分けることにいたしました！

よろしく願いいたします。

- ・「塀の中のたより」：受刑者からのお手紙
- ・「塀の外のたより」：出所者からのお手紙
- ・「巷のたより」：支援者からのお手紙



## 講演後アンケート

### 神田教会

人との関わりの中に、祈りの中にキリストがいる。  
幼児洗礼でぼんやり過ごしてきてしまっているの、もう一度、祈り、考え、行動していきたいと思います。



実際に体験された人の話は、心をわしづかみにされるような思いをした。



りなのパパさん

### 東洋大学

犯罪に至ってしまった彼らの過去にも目を向け、犯罪したことのみに焦点を当てるのではなく、本質と今後にもきちんと着目していくべきだと思いました。



刑務所の実情を聞いて、心身障害者の施設の実情も同じであることに驚きました。誰も同じ人間なのに、犯罪を犯したから、障害を持っているから、自分たち人間とは違う別の何かであると思われるのは、非常に悲しいことであると私も思います。



「甘え」ではなく「助けて」ということが大切なのだ、というお話に、自分自身の今までの行動をさらに改めていかなければいけないと感じました。

お話ししている姿を見て、一番に思ったことは、“普通の人”だということです。街を歩いていてすれちがったとしても、何とも思いません。

何も知らなければ普通の人なのに、一言“元受刑者”という事実を明かした途端に、フィルターがかかってしまいます。これは、今の世の中だったら大多数の人がかけてしまうフィルターだと思います。このフィルターがかかってしまう世の中を変えることは厳しいと思います。

普通の人として接すること、これは一番の支援かもしれませんが、一番難しいと思いました。もし私が今後、そのような人と接する機会があれば意識したいと思います。



今回の講義を聞いて、私達は、犯罪者であっても私達と同じ人間だという事を、再度、心にとりとめておくべきだと考える。受刑者が社会復帰を目指す際におこる様々な困難は、私達が起こしてしまっているのだと思った。「前科があるから…」という概念が良くないと考える。

家庭環境や、今自分がおかれている状況が変わってしまえば、私達も簡単に犯罪に手を染めてしまうかもしれない。

私達の心ない言葉が元受刑者の方々を傷つけてしまっていると思った。



社会の構成員として、前科者に対する信頼は低いことは否めませんが、一人ひとりの背景を考えながら歩み寄ることが大切であると思いました。



罪を犯した人は確かに悪いですが、人を人として扱わない体制のままでは、恨みや憎しみを生むだけです。



刑務所内のいじめや事件、個人に向き合うべきであるソーシャルワーカーが、初対面であるにもかかわらず、平気で、何をやったのかを聞くという話が印象的だった。



法を守るべき存在の側が、逆に受刑者に対して虐待に近いことをしていることは許されないことだし、(略) 誰も受刑者の声を聞いてくれないこと、誰もその人に手を差しのべてくれないこと、どれも孤立することに繋がってしまい、同じ人間であるのに人として対等に見ないことが、さらに悪い方向につなげてしまっているのだなと思いました。

今の日本の社会では、手を差しのべるべき存在に対してつき離して、いろんなハンデを負わせてしまい、社会全体で良くない方に行ってしまうのだなと思いました。社会的にハンデを負ってしまっている人に対しても優しい社会にしていかなければなと思いました。

M  
刑  
K  
・  
J  
さん

日本は貧困大国(心の)で、無関心のあふれる国なので、犯罪者の方一人でも日本の大きな問題点が見えてくると思った。



私は先日、温泉でくつを盗まれました。お気に入りのくつだったし、買ったばかりだったので、すごくショックでした。なので、盗んだ人が捕まればいいのにと思いました。(たぶんムリ…)

でも今日の話聞いて、捕まったからといって前科がつくだけで、その人のためにはならないのだなあと感じました。その人が、誰か注意してくれる、向きあってくれる人に出会えて、今後二度と盗みをはたらかない事を願います。



私ができることは、変わろうとしている受刑者の方の邪魔をしないことくらいですが、知ることができたのは大きいです。



「刑務所」という場所がどのような場所なのか、今まであまり考えたことがなかったので、考える良い機会になりました。

今、日本人の関心は、社会や世界ではなく、娯楽やゴシップにばかり注がれているように見えます。そのような社会に対して訴えても、反応は薄いかもしれません。また、被害者家族の反発を買うかもしれません。

それでも、もっと多くのメディアを利用して訴えかけべきだと思いました。



刑務所の現実を知ってとても驚いた。

受刑者を人として扱っていないし、社会復帰どころか人間味のないロボットになってしまうと思った。



五十嵐さんが行なっていっしょやることはとても素晴らしいと思った。出所後のケアも大切だし、犯罪予防もしなければならぬと思う。

社会は変わるべきだが、人のせいにははいけないと思う。



刑務所に入ればご飯も食べられるし、寝る所もあるから犯罪をした、という人をテレビで見た。すごく悲しいことだと思った。

今の日本の環境はあまりにもひどいもので、助けてほしいというサインを出せない、またはそのサインをくみとれない社会であることは間違いない。犯罪が増える理由は“人”にある。そして、犯罪を減らしていく社会を作り出すのにも同じく“人”の力が必要であるというのを感じた講義であった。

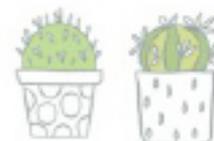
人を愛すということが重要で、平和な社会を作り出すものであるということを学んだ。



社会復帰で大切なことは、自分のことをよく理解すること、そして支える人のあたたかさだと思いました。



受刑者だけでなく、その家族の皆さんも住みやすい世の中、社会になってほしいと思った。人権の守られる世の中になってほしいと思った。とても勉強になりました。



## 堀の中のたより

### K刑 Y・Aさん

#### 《 マザーハウスと出逢って 》

私は、5月に2年ぶりに晴れて社会復帰します。

失敗をくり返す内に、アカンことはアカンって言うてくれる人も減り、してええこと、アカンこと、当たり前のことすら忘れてええかげんに生きて来て、もうすぐ務めを終えるけど、その間に失くした時間が戻って来る訳でも、潰した信用や人の仲も戻って来る訳でもないし…。

出所しても、自分自身に、そして社会に負けて、ほんま出戻りの人って、ここ多いから…。まあええか…。そんな気持ちが月日経ち、俺の人生こんなもんかって今日まで思ってた節もあったけど、マザーハウスと出逢ったことで、自分の中に残っていた純真な部分に温かいもんが灯ったというか…うまく言葉にできませんが、こうやって我々のこと一生けん命に理解しようとして下さる方がいて、心を傾けて下さる人がいるんやったら、もう一度、社会で挫けた所から、頑張ってみようかなって…。

今まで失敗だらけの人生に、変わる勇気を持ってみよって、少しだけ私、希望を持ちました。

(略)

マザーハウスたよりを通じて、私達に理解と励ましを下さる方の存在も心強いです！過去を話すって、自分の恥をさらす様で恥ずかしく。「何やっとなねん…」って振り返って我ながら思うんですけど。



(略) 本当のこと話すと、返事はおろか相手にしてもらえないと思い、4度目の務めなのに初犯と前に書きました。本当にすみませんでした。

刑務所に入ってる者も、これから同じように私達と社会で生きてく人間なんやからって、そう思って考えて下さる方の気持ちって、素直に心に響きました。

私も日々、益々の充実に向けて頑張るので、マザーハウスのスタッフの方たちも、どうか、それぞれの家庭や生活もあるとは思いますが、お互いの頑張りがお互いの元気や充実につながり、この出逢いも明るい明日へつながって行くものと私信じています。これからも私達の希望であって下さい。



### G刑 O・Sさん

#### 《 生きて出所する 》

3月、第11工場の担当から。「O、面会」と、告知。私は「はい」と答え、用便の許可を得て、トイレに、手洗いをすませて、面会担当を待つ。面会担当の連行により、面会室に、面会者確認の指示を受けて、面会室扉の小窓を覗く。

私は、神の愛の宣教者会のシスターM・Rさんの面会と思い込んでいましたので、一瞬、自分の目を疑う、息を飲み込む。マスクを付けて、座って、扉方向を見ている面影は、9年前と変わらない、懐かしい人に、驚嘆。平成20年の出来事が、走馬灯のように私の脳裏に映し出されて、感動が込み上がってくる。

面会担当から、「誰か分かるか」の間に、私は慌てて「いい五十嵐さんです」と答える。「よし」と担当は、面会室の扉を開ける。

私は面会室の中に入り、プラスチックの鏡の向こう側に座っている五十嵐さんに「お久しぶりです。ありがとうございます」と言いながら、丸椅子に座る。五十嵐さんは私に挨拶し、私の身元引受人の確定のこと、保護司のこと、出所後の私の自立のことなどが話されていました。

私は、五十嵐さんと再会できたことに感動、嬉しくて目頭が熱くなる。元、同じ刑務所に服役していた受刑者が、私とは何等、遠戚関係もないのに、こうやって面会ができています。(略)

当刑務所はLB級の刑務所である。再犯率は70%から80%と、非常に高い刑務所の受刑者にあつて、五十嵐さんは見事に更生されて、他の受刑者の支援活動を実践されている。(略)

当刑務所には、身元引受人がいなくて、30年、40年と服役されている受刑者は、多数います。五十嵐さんの支援活動は、身元引受人のいない多数の無期受刑者に、私も含めて、希望の灯火を照らされている。この功績は、本当に凄いことです。

私はこの日、就寝時に、多忙の中を折角来所されて面会、私のために話されていたことを夢物語のように聞いていたことを、強く後悔した。

私は自分の立場を真剣に考え直してみました。私の生かされている使命、意義は、私が生きて出所することにある。その事実こそが、他の無期受刑者の希望の灯火を照らし続けることになる、と気がきました。(略)



### 《 一度は獄死を覚悟した 》

当刑務所第1工場において、五十嵐さんから、キリスト教(カトリック)の宣教を受け、神の愛の宣教者会のシスターJさんを紹介される。当時、私は20歳のころ、熱心な創価学会の信者である実母から、折伏を受けて入信(当時は、日蓮正宗創価学会でありましたが、平成4年ごろ、日蓮正宗より破門を受け、創価学会は独立法人となる)、約45年以上の長い信者である。

又、実母は、私の身元引受人でもありましたが、平成8年ごろ、観察官による面接があり、「お母さんは高齢であるから、貴方の身元引受人は適当ではない。他の人に身元引受人になってもらうように」と言われている。

私は、その悩みを五十嵐さんに話した。彼は、「私は、出所したらそのような悩みをもっている受刑者の支援活動をするつもりでいる」と力強く話をしていた。

私はこれまでに、多くの受刑者の「出所したら」の言葉に騙されてきた。嘘八百を聞かされてきた。騙されてもともとであるが、イエス・キリストは信じる価値があると、宗旨を変える決意をした。

平成21年6月、母逝去の電報を受け取る。これで私の身元引受人は、実質的に皆無となる。この時、私は獄死を覚悟しました。



## T刑 S・Yさん

### 《 50年以上離れていたイエス・キリストに再び導かれた 》

私が聖書を再び手にしたのは、刑務所入所以来、20年を過ぎていた。それまでは全く宗教行事に参加することもなく、宗教とは無縁の毎日を送っていました。そしていつか私は、70歳を過ぎてしまった。

そんなある日、私は官本の聖書を読む機会があり、キリスト教に目覚めました。

私は10歳の時に洗礼を受けていました。なのに、50年以上の歳月を無神論であったことを、強く感じた。私は今年4月で七十九歳になる老人です。

昭和 20 年8月9日、午前 11 時2分。広島に続いて、長崎の浦上の地に投下された原子爆弾により、両親を始め、兄・姉を一瞬の内に失いました。

原爆孤児となった私は、焼け跡をさまっていたところを聖母の騎士修道院のゼノ修道士に救われ、聖母の騎士園に預けられました。まだ設立されたばかりの聖母の騎士園にて、私は小学校・中学校と学ぶことになり、その騎士園で昭和 23 年の復活祭に、アントニオ・ミロハナ神父様から洗礼を受けたのです。

中学卒業後、美容師を目指して、内弟子として長崎市内の美容室に入店。戦後 20 年代、都会でもまだ男性美容師が少ない時代、地方では男性美容師は皆無の時代だったこともあり、内弟子に入ったことで、修行生活に入った為に、教会に行くのが不可能に。



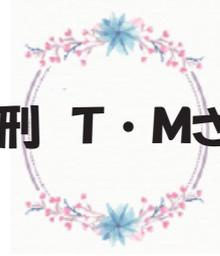
りなのパパさん

その様なことで結局、カトリックの信者でありながら、いつか宗教とは無縁の生活をしていました。そんな私が、カトリック、主イエス・キリストを信じることで、自分自身を見つめ直すことに目覚めたのです。

平成元年入所なので、全く社会経験がなく、携帯電話も、スマホも知らない。(略) 平成の刑務所は、無期刑の私たちには仮釈放もなく、辛い生活の連続だったが、主イエスを信じ、聖母マリアを母と信じ、現在の私は、辛いことは忘れて、修道院生活を送っていると思い、朝に夕にお祈り三昧の生活に。今の私が生まれ変わることが出来たのは、やはり宗教の大切さを感じたからでもあると思っている。

聖母の騎士園で 10 歳の時に洗礼を受けた後、中学卒業後、50 年以上も離れていた宗教、イエス・キリストに再び導かれた今日、この受刑生活を大切にして、被害者の為にも祈ることを忘れず、ロザリオを毎日繰り返す生活に生き甲斐を思うことで、少しでも主イエス、聖母マリアに近づき、今の生活を有意義に生きたいと感じています。

## 0刑 T・Mさん



### 《 人の気持ちに思いを寄せ、感謝することが大切ではないか 》

12 月号たよりの理事長挨拶を拝読して、更生について改めて考えました。

「支援をしてもらって当たり前」という考えを持っている人達が少なからずいることに驚きました。多種多様な考えを持った人がいますので、仕方のないことかもしれませんが、支援を下さっている方達の気持ちに思いを寄せ、感謝することが大切ではないかと感じました。忙しい中、貴重な時間を私達の支援の為に使って頂いているので、その事を考えれば、自分本位な考えは抑えることができると思います。

人は、周囲の人達の影響を受けるので、どんな人達と付き合っていくのかとても大切になると思います。ですので、マザーハウスの寄り添う支援は大変大切であると感じます。

理事長が言われているとおり、「マザーハウスを利用しても更生はできない」「自分を知り、自分を変えることをしなければ、現実は変わらない」ということ、まさにそのとおりだと思います。(略) 最終的に判断し、行動を起こすのは、他の誰でもなく自分自身です。自分自身が更生への強い意志を持っていなければ、他人本位の考えでは絶対に更生できないと思います。

自分を知り、自分を変える上で、マザーハウスたよりは、たいへん役に立っております。





## M刑 N・Kさん

### 《 耐える力を身につける 》

毎月送られてくる「マザーハウスたより」を楽しみにしている私ですが、その中に、受刑者の皆さんが職員に対して苦情ばかりの文章がありました。

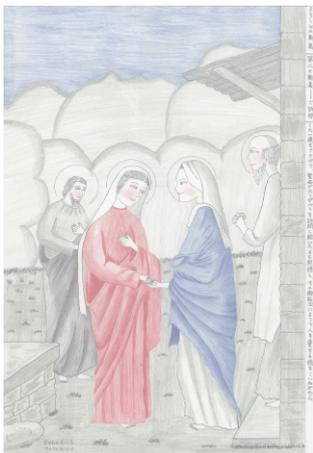
懲役にしか威張れないとか、(略) 職員のことを考えるとイライラするとか、この人達の言うことも分かります。でも、どうして悪い方に見るのか、悪い方に考えるのか、全く分かりません。どうしてこんな腹の立つこと、こんな矛盾だらけのことが許されるのか、と思うのですが、そう思っているのなら、二度とこんな所に来ないぞと強い意志を持って出所して行ってほしいものです。

(略) 社会は甘くないのなら刑務所も甘くないのです。

勘違いした務め方をせず、耐える力を身につけると思い生活してほしいのです。私も刑務所生活9年を過ぎ、そのことを学び、何を言われてもびくともしない精神力を身につけています。こんな所で短気を起こすようなら、自由のある社会ならもっと短気になると思うので、どうか短気を起こすことなく社会に出ることを考え、更生の二文字を胸に刻んで生活してほしいです。

(略)

先のことを今考えても…という人がいますが、今からやらなければいけないことがたくさんあります。勉強に早い遅いはないので、日々頑張って勉強をさせていただいています。



死刑囚

私は頭が悪いので、文章も下手だし言い方も悪いと思いますが、どうかお赦してください。ただ受刑者の皆さんに一言だけ言いたいのは、主イエスさまを信じるのと同時に、お祈りをしてくれる友を探してください。心が落ち着き、人を信じられる人になっていくと思います。そう思います。

皆さまの上に主の祝福が豊かにありますようにお祈りします。




## M刑 S・Nさん

### 《 回復プログラムに取り組んだ12日間 》

以前、「たより」と同封されていました回復プログラムについての感想を書きます。

1

まず初めに、内省についてですが、矯正指導の日課でもあり、やったことがありますが、自分を見つめるためにはとても役立つと思います。何故刑務所に居るのか、家族などに言いたいこと、伝えたいこと、考えながら書いてるうちに、怒りや謝罪、寂しさ、辛さ、本当は更生したいと思ってることなど様々な考えが浮かび、刑務所なんかには居る自分が情けなく感じ、被害者の方々や家族へどれだけ迷惑を掛け苦しめてきたかをあらためて考えることが出来ました。



## 2

そして2日目は、自分自身の理想の高さに気付くことができ、身のたけに合っていないと感じました。理想が高くなると、その分、負担も大きくなります。その結果、犯罪を犯してでもお金を得ようとする、自分自身の身のたけに合った暮らしをすれば、犯罪に手を染めることもなく済むのだらうと思います。自分で働き、もらった給料の範囲で生活することが必要であり、普通の暮らしをすることで、二度と刑務所へ来なくて良くなると思う。

そして今回は、聖書との出逢いやマザーハウスとの出逢いで、本気で更生しようという気持ちになれたことが、私の1番の体得したことではないでしょうか。

## 3

そして3日目、おかげさまで規則正しい生活を送っているの、健康面は問題ありません。また、身元引受をして頂けると決ってから、眠剤や安定剤も止めています。ただ、痔があり、これは手術をしなければいけないと医務で言われており、歯医者へも行かなければいけないと考えてます。

あと、これまでは、自分の利しか考えずに行動してきたこともありましたが、今後については、相手のことを考えたり、逆の立場ならどう思うのか、なども考えて行動したいです。

そして、性格や弱点として、私は、人に流されやすく、誘惑に弱いところがあります。こういったところを直すようにして、短気なところも、直して行かなければいけません。また、長所として、人に優しくすることが出来る面もありますので、思い遣りを持った対応をしたいと思います。他人に優しく、自分に厳しく実践出来るようになりたいです。

## 4

そして4日目ですが、考えてみると、私のこれまでの人生は良いことが殆んどなかったように感じます。父は、酒を飲めば暴力を振るい、母もそのストレスからか、今なら虐待となるようなことも多々ありました。20歳から28歳までは、組員として活動してましたから、束縛された生活でしたし、その後は今に至るまで、殆んどが刑務所の中です。なんのために生きているのか分からない人生でした。

## 5

そして5日目、親との関係ですが、私がこうして刑務所へ入るようになり、疎遠になっています。ですから、与えたものは特にありません。だけど、私はまだ親になったことがありませんから、親の気持ちは分かりませんが、男として、大人になり、父も母との間に色々な事情があって、酒を飲んで暴れてストレスを発散していたのかな、と思えるようになりました。

## 6

そして6日目、聖書の言葉を読んで感じたことは、聖書の教え通りに生きられるようにしたい。そして、私達は神様の創造物であり、神様に生かされていること。たとえ、罪を犯した者であっても、悔い改めようとするならば、赦してくれる慈悲深い愛を示して下さい方だと思った。辛いこと、苦しいこと、忍耐しなければいけないことがあっても、きっとその先には必ず幸せがあると思います。私達のために、キリストは命を持って罪を償ってくれたのですから、その愛のある行為を無駄にしてはいけないので、今回の受刑生活を最後に、回心して、二度と罪を犯さないように、神様を信じて、導かれるままに正しき道を歩んで行きたいと思います。

このような私でも、見捨てることなくいてくれるので、清い心を持てるように努力しなければいけないと感じました。

## 7

そして7日目、やはり、社会に居れば感じませんが、受刑生活の中で、ものすごく孤独感を感じています。

家族も友達も、これまでの関係や付き合いはなんだったのか？困った時に側に居てくれるのが、家族であり、友達であると思います。

この孤独感は、これまで自分が歩んで来た人生の結果であることに気付きました。これからの人生は、きちんと自分自身と向き合って生活して行こうと考えてます。そして、悔い改めて人生を送るためには、良い仲間と過ごすことが大事なことだと思います。



## 8

そして8日目ですが、異常な状態とは、まさに、今のこの状態を言うのではないのでしょうか。これまでは、若かったせいもあってか、普通の人よりも良い思いを沢山しているのだから、少しの間、刑務所に入っても何でもないやと考えていたこと。今は、こうして支援して下さるマザーハウスの皆さん、またLPのボランティアの方のお蔭で、考え方も変わりました。そうして支えて下さる皆様への報いとして、更生すること、強く心に思います。

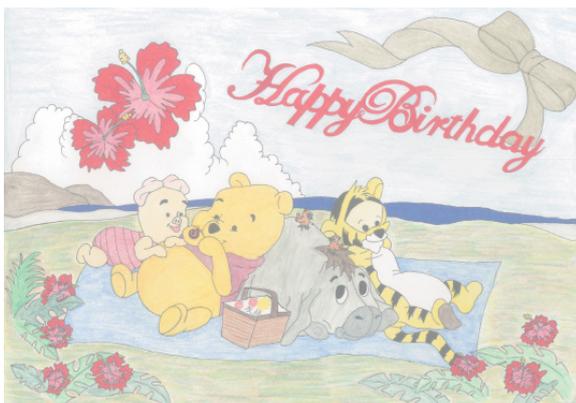
## 9

そして9日目、社会に戻ることは、とても楽しみです。自由の素晴らしさは、刑務所に居た者なら皆分かることだと思います。然しながら、世間の風の冷たさも知っているのだから、出所後のこと、住む所や仕事のこと、その他にも、心配なこと、不安なことは一杯あります。きっと、マザーハウスのことを知らずに務めていたならば、更生しようなんて考えることもなく、悪いことをしても捕まらない方法を考えたりして過ごしていたことと思います。

## 10

そして10日目、被害者に対してですが、矯正指導の日課などでも考えることが沢山あり、これ程、被害者のことを考えた受刑生活は初めてです。仮に、逆の立場で私が被害者ならば、多分、ずっと刑務所の中に居てくれと言うんじゃないかと思っています。

そして、私が被害者の方々に何が出来るのか、自分の無力さに情けないです。ただひとつ、出来ることといえば、これ以上被害者を出さないことだと思います。また、出所して刑は終わるけど、贖いは死ぬまで続けなければいけないと思います。



受刑者

## 11

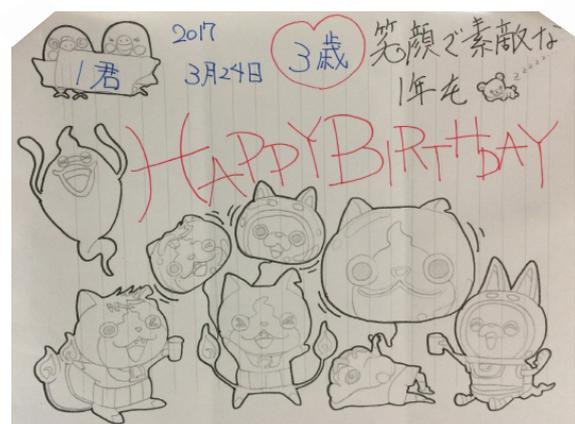
そして11日目は、確かに、人は認められ、愛され、肯定されること、信頼されること、それらはとても大切なことだと思います。愛されたことのない人は、愛することが出来ないし、人に認められれば認めることも出来る。ようは、自分が人にして欲しいと思うことは、自分が人にしてあげれば、かなうのではないのでしょうか。

そして人は、生活するためには、働いて生活費を得なければなりません。ぜいたくな生活は望まず、必要最低限のお金があればそれで良いかと考えてます。苦しくて、人に愛されるように生きられたらと思います。

## 12

そして12日目、最後になります。私にはLPのボランティアの方を紹介して頂いたお蔭で、社会とのつながりが切れてはならず、今は独りぼっちではないと確信しています。自分が考え方を改め、前向きに生きる気持ちがあれば、支えてくれる人は居ることを知りました。今の気持ちを忘れることなく、常に何にでも、感謝の気持ちを持ち過ごすこと、支えてくれた人達を裏切ることなく報いすることだと思います。

そして、この毎日主の祈りをしてきましたが、今後も、眠る前に心の中でお祈りしてから眠りたいと思います。また、呼吸を整える時間も作り、短気を起こしそうな時には実行しようと思います。



T拘 H・Kさん

なんだか、感想を書くように「たより」に書いてあったので書きましたが、文章を作るのが苦手なので、感想文になってるかどうか分かりませんが、思うままに書いてみました。





## G刑 G・Hさん

### 短歌

- ・年重ね 一つ一つを 手放せり 心軽くし 空に近づく
- ・雀にも 老いはあるかと 思いつつ 砂浴びの様 じっと見詰める

### 川柳

- ・カレンダー 集めて壁の ボロ隠し

### 俳句

- ・弾むとは 北風を駆け抜く ランドセル

### 《 自分の劣等感に気付く 》

マザーハウスたよりをご覧の全国の皆さん、お元気でお過ごしでしょうか？！

さて、私事ではありますが、先日、私は規律違反で調査となりました。違反内容は想像して下さい。舎房では配食を任せられ、担当からもそれなりに信頼を得ており、全てがうまく行っていた私に一体何があったのか？懲役は何が起きるか分からないものです。

最初は正直、もう投げ遣りな気持ちになっていましたが、今冷静に考えてみますと、工場を出て色々な人と出会い、接し、人と関わる事がいかに重要で難しいかという事を改めて知る事で、自分の成長を少しですが感じました。今では、良い経験だったと振り返れます。前は、小さい事を悪い方にばかり考えてしまうタイプでしたが、今では何事もプラスに考えるようにしています。

人間が生きて行く上で大事なものは、劣等感の克服です。人は誰でも、多かれ少なかれ劣等感を持っていますが、それに気付いているかいないかという事だと思っております。気付かないでいると、いつまでも誰かを責めたり傷付けたりします。

私も、人間関係という自分の劣等感に気付き、素直に認めることで自分らしく生きて行ける事にも気付くことが出来ました。それからというのは、変にイライラする事もなくなりましたし、人に対しても大きな気持ちで向き合えるようになり、人間関係も以前よりはうまく行くようになったと思います。



### 《 失敗は警告であり、ヒントである 》

失敗を恐れて無難な道を選んでしまうこともあるかもしれないけれど、失敗も考え次第では有り難いものだとポジティブに捉えるようにしています。

失敗は次の警告となり、ヒントにもなります。そしてステップアップの糧にもなるのです。私は、今回の失敗で多くのことを学びました。皆さんも、このようにどんなに苦難が起きてても、ポジティブに捉え、乗り切りましょう。

神様は乗り越えられる人の前に壁は作りません。私の残刑はまだありますが、このまま事故のない生活が続くよう、神に祈っております。



## M刑 S・Nさん

### 《 たよりを読んで 》

3月号に掲載されておりました「穴の開いた桶」N刑I・Mさんの記事を読み、とても立派な文章に驚き、そしてこの本を手に取り読んでみたくなりました。

早速、フランススコ事業部へ注文しました。手元へ届くのが待ち遠しいです。

また、毎月のように、何処かしらにLPの件について掲載されているのが目に付き、読む度に、又か…と読んでしまいます。不心得者が多いことに腹が立ってなりません。

私もLPには参加させて頂いており、とても良い人であり、本気で私のことを心配して下さるのが文面からも分かり、私も長く続けて行く間に、全ての私が犯した罪についても正直に話をしました。その罪の半分を私にも背負わせて下さい。と言われた時には感動し、涙を流してしまいました。

確かに、一部の輩のような受刑者が、女子大生と文通が出来るだとか、出所後も会ってくれるとか、会費を払っても本を送ってくるので元は取れるとか言ってる人を、私も会って知っています。そういう人を見ると、本当に残念でなりません。

3月号に掲載されている「家子詩さん」の文章に感動して、涙を流してしまいました。このように、本気で受刑者の更生を願ってLPに参加してくれる人に感謝しなければいけないのに、履き違えた一部の受刑者のお蔭で、気分を悪くしている人は私だけではないと思います。

そうやって履き違えているような人は、すみやかにマザーハウスとは縁を切り、退会して欲しいです。そして、そういう人はきっと再犯を繰り返し、寂しい人生の終わり方をすることでしょう。気が付いた時には遅いのです。

### 《 更生することが報いること 》

私もたいして偉そうなことを言える立場ではありませんが、それでも私は本気で更生を考えるようになりました。刑務所はもう懲り懲りです。こうした考え方に変わったのも、マザーハウスとの出会い、そしてLPのボランティアの方との出会い、聖書との出会い、これが大きいと思います。

本気で更生をするように支援して下さる人達が居る以上、私も今度こそ真剣に更生への道を歩みたいと思います。支援して下さる方に対して何が出来るのか分かりませんが、更生することが報いることなんです、とLPの相手の方から教えてもらいました。これ以上、人を裏切ることなく頑張ります。

刑務所で、月2千円で真面目に作業出来るんだから、今なら、社会でどんな仕事でも出来るように感じます。自由であることの大切さを知りました。どんなに貧乏しても、自由が一番です。もう二度と塀の中へは戻らない、と強く思います。7年の刑期も残り1年2月です。この気持ち忘れず、残りの受刑生活を送ります。

この先も、マザーハウスの方々にはお世話になりますが、宜しくお願いします。そして、これからも、真剣に更生しようと考えている人達のためにも、マザーハウスたより製作頑張ってください。これからも楽しみにしております。



### 《 雪 》

- 一、ほんの小さな過ちを 赦せなかったあの頃は  
あなたを責めて責めぬいて 愛しきものを壊してた  
男と女の間には 綺麗なままでは済まされぬ  
雪の白さに似た命 それが愛だと知りもせず
- 二、振る白雪の融け出して 泥沼と化すその前に  
綺麗なままで大空へ 帰れと祈る若き日の  
切ない愛を引きずって 失くしたものを探してた  
変らぬあなたと変わり行く 私の心を見つめつつ
- 三、悩む内にも春が行き 恋する内にも時が経ち  
いつか私も大人なら 雪の白さはひと時の  
綺麗なだけの夢と知る 泥水の中に根を下し  
清らかに咲く花もある それが愛することならば

## ささきみつお コーナー

### 恐れを克服するには



子どもたちが小さかった頃、家族で多摩の自然動物園に行ったことがある。子どもたちがキャッキヤと楽しく遊んでいる時、私はふと、大きな檻の中の野鳥の群れを見ていた。その檻は天井がなく、野鳥が自由に出入りできるようにになっている。

群れからちょっと離れて、一羽のハトが餌を啄んでいた。突然、音もなく大きな鷲がサーッと舞い降りてきた。地上に立った鷲がじっとハトを睨みつけると、ハトは氷のように固くなってしまった。おもむろに鷲はハトに向かってのっしのっしと歩いて近づいていく。

「早く逃げろ！なにジツとしてるんだ！」。私は心の中で叫んだ。だが、ハトは身動き一つしなかった。やがて鷲づかみにされたハトは、アツと言う間に食べられてしまった。実に恐ろしい光景だった。今でも時々、その時の記憶が鮮やかによみがえってくる。

その後、スピルバーグ監督の映画「ジョーズ」を見た。サメが海で泳いでいる人間を襲う、有名なスリラー映画。以後、海に入るのが怖くなってしまった。沖合にまで泳いでいこうとすると、どうしてもジョーズのシーンが思い浮かんでしまう。



一旦、おくびょうの霊（恐れ）に捕らわれると、恐怖で心が委縮してしまう。体も委縮して、自由な行動ができなくなる。いつも何かを恐れて逃げ回る。そのうちに、被害妄想に捕らわれて外出もできなくなった人を、大勢知っている。他人には被害妄想に思えても、本人は事実だと信じているから、かわいそうだ。

恐れていると、積極的な決断や前向きの行動がとれなくなり、小さな問題をこじらせて大きな問題にしてしまう。こうしてますます窮地に陥っていく。

それでは、恐れに打ち勝つためにはどうしたらよいのか。聖書によると、恐れ（憂）の霊（憂）に対抗できる武器は、全能の神を信じる信仰と、永遠の命の希望に基づく神の愛である。

恐れ（憂）の霊の背後にはサタンがいる。医薬や、ヒューマニズムの知恵と愛では、サタンがあやつる無慈悲かつ残忍な、執拗かつ悪賢い恐れ（憂）の霊には対抗できない。肉の力で対抗すれば、かえってサタンの罠に陥るだけである。サタンの挑発に乗り、悪に対して悪をもって対抗すれば、人間同士がお互いに傷つけあい、殺しあうことになる。それがサタンの究極の目的である。

だから、聖書は、あなたの敵を愛し、あなたを迫害する人のために祈りなさいと言う。悪に対して善をもって報いなさいと言う。復讐は神がしてくださるから、神にまかせなさいと言う。

神の愛があれば、何一つ恐れることはない。自分を殺そうとする敵をも愛するキリストの愛があれば、サタンのあやつるいかなる恐れ（憂）の霊に対しても、打ち克つことができる。恐れ（憂）の霊に対抗し、これを克服するためには、信仰と希望と愛を成長させざるを得ない。キリストとの結びつき（一体化）を強めざるを得ない。それこそは、真の勝利であり最大の祝福である。サタンの存在が許されている理由の一つでもある。



M  
刑  
K  
・  
J  
さん

「恐れるな、わたしはあなたと共にいる」（イザヤ 43：5）

「神が私たちに与えてくださったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊である」（第二テモテ 1：7）

「愛には恐れがない。全き愛は恐れを締め出す」（第一ヨハネ 4：18）



ささきみつおブログ → <http://ixsasaki.ti-da.net/>

## Lovely DAYs

マザーハウスで信頼厚く活躍していたSさんは、ある日若い女性と出会った。婚約までいったが、仲たがいをし  
てしまい、破局した。

けれどSさんはその女性を諦められず、追いかけて始めた。それからSさんは豹変し、マザーハウスの仲間たちの助言も無視して、それどころか平気で嘘をつくようになった。

一人ひとり離れていくのにも関わらず、恋は盲目、そんなのお構いなしのSさんは、あの手この手を使ってでも女性に振り向いてほしかった。



けれど、女性は既に違う男性とお付き合いをしていた。それでも諦められないSさんは、その女性が働くキャバクラに通い詰め、キャバクラへ通う為の資金を得る為、ついに犯罪に手を染めてしまった。

Sさんは心を閉ざし、現在、独りぼっちである。皆さんも、女性にはくれぐれもお気をつけを。



ちなみに、女性に気をつけるといえば…

私と主人が付き合っている頃、満員電車の中で、私が主人の耳元で

ここで「痴漢です！」って  
叫んだらどうなるかな…



と囁くと、主人はこんな顔をしていた（笑）

やっやっやめろよっ



私のような女性にもお気をつけを！（笑）

## 塀の外のたより



### 《 支援して下さる皆様へ 》

御支援していただいている皆様方に心より御礼申し上げます。

こんな私達に温かい気持を差し延べていただけるなどと、思ってもいませんでした。社会の人達から、冷たく相手にもされなくて当り前の事をして来た私達です。罪は、刑務所に行って償って来たとは言え、一生、消えるものではないと私は考えております。親とか、家族から見放された人達も沢山います。家族の居ない人達もいます。そんな中、他人の皆様方が、心温かく、御支援、寄付をいただき、本当に感謝の気持で一杯です。

これからは、その感謝の気持を一生忘れる事のないように、誠心誠意頑張って生活出来るようにしていかなければと思います。そして、何時の日か自分も、こうして助けていただいたように、人の為になるような事をしていきたいと考えております。

こんな私達であります、これからも温かく見守っていただきたく思います。皆様のお気持ちに添えるように頑張っていきます。

本当にありがとう御座います。



受刑者

## 《 大切な友達の再逮捕 》

私の大切な友達が、又、覚醒剤で逮捕されました。とても、ショックでした。

私は友達が逮捕される前の前の日に東京に行っていて、一晩、彼女の所に泊っていて、色々な話をしたりして、楽しい一晩でした。次の日彼女と別れる前に、少し気になり、絶対に薬には手を出さないでねと言って、彼女は、うん分っていると言いました。私とずーっと付き合っていたいし、私の事を姉のように思っているし、親もないので、私の事を親がわりのように思っている、との事でした。

私も彼女と同じ気持ちでいるだけに、別れた次の日から彼女と連絡がつかなくなって、本当に心配で、眠る事も出来ませんでした。連絡がつかなくなって、もしかして捕まったのではと思いましたが、彼女の事を信じたい気持ちもあり、手紙が来る迄は本当に心配しました。

手紙がなかなか来なかったのは、接近禁止がついていた為、なかなか手紙を書く事が出来なかったという事でした。手紙には、本当に御免なさい、御免なさいと書いてありました。そして、私を裏切ってしまった事を大変後悔している、別れた日、本当は薬の事、よっぽど話をすべきか悩んだそうですが、やはり言う事が出来なかった、と手紙に書いてありました。



手紙が来た後、彼女は住んでいるマンションの事もあり、保釈され、一旦出て来ました。マンションの片付けのとき、私も数日、彼女の所に行きました。

(略) 別れの日はとても辛く、これで何年か会う事が出来なくなるのだと思うと、なんとも言えない気持ちになりました。二人で泣きながら別れました。彼女は、こんな私だけ見捨てないでねと言いました。私は、見捨てる訳ないだろうと言いました。何時までも待っているから、真面目に務めをおえて一日も早く帰って来てね、と言って別れました。判決は二年十ヵ月となりました。

とても私には長く感じましたが、私は彼女の帰りを待つ事、その間、私も自分の弱い所に負けないように頑張っていかなければ、と思っております。生活をしていくには、辛い事、悲しい事、悩む事も色々ありますが、楽しい事もあります。

そして、自分にも小さな目標があります。その目標に向かって進んでいかなければと思っております。そして彼女が帰って来たら、今度こそ力を合わせて助け合って、二度と間違いを起こさないように頑張っていこうと考えております。



T  
刑  
Y  
・  
R  
さん

## 巷のたより



## 《 文通ボランティアとして 》

私が文通ボランティアをさせていただいているのは、他人事でないと感じ、私にできることをさせていただきたいと思うからです。

他人事でないというのは、私が今たまたま塀の外にいるのは正にたまたまのことに過ぎないからであり、精神病の烙印を押されて病院へプチ込まれ、刑務所とどちらがマシか、比べようのない目に遭わされ、一生精神病患者として偏見差別を受ける羽目になったからです。(私は一度も暴れたり大声を上げたり暴力をふるったりしておりませんし、自分を傷つけるようなこともしていないのに、です)

そして、日本の国の法律で禁じられ、罰則規定が設けられていなくても、人の目にはわからなくても、神の目には塀の中の人たちの何倍も悪いことをして、何の咎めも受けないばかりか、先生とか社長とか呼ばれて、甘い汁を吸っている人たちを知っているからです。塀の中とか外とか、神様は人をそのように区別なさらないと信じております。

でも、他の人たちと自分を比べて一喜一憂することは、神様を無視する生き方であり、それこそ罪の根本であると思います。ですから、罪を犯しているのは自分だけじゃない、などと安心してはいけないと思います。

私は、教えたり諭したりすることは私の役目ではない、私の役目はあくまでも「外の風」を運ぶこと、と考え、友人同士として文通させていただいているつもりです。当然のことながら、お一人お一人違い、中には、外の世界でも滅多にお目にかかれぬほど、真面目で謙遜で立派な方もいらっしゃいます。教えるどころか、いつもどなたからも、私が教えられております。

多忙、体調不良、自分自身や家族・友達の問題などに忙殺されてお返事が遅くなりがちで、申し訳なく思っております。逆にご心配いただき、お気遣いをいただいております。

頼み事につきましては、私の役目ではありません、とけじめをつけることができずに引き受けてしまい、「たより」を読んで悔い改めました。

一月号では、闇の中にも光があり、光の中にも闇がある、とのお言葉が心に残りました。



M  
刑  
T  
・  
S  
さん

## 《 加害者と被害者の和解 》

加害者と被害者との和解は、主のみこころであり、理想であり、それができたらどれほど幸いかと存じますが、これほど難しいこともないように思いました。

若い頃、牧師の説教で、戦争中家族を殺された人が、戦後殺した人と会い、少しためらったが思い切って握手したら、お互いに涙が溢れ、和解し、喜びに満たされた、というような美談を聞いたことがあります。でも、私は、そこに到るまで長い年月どれほど苦しんだことか、そして、それで「めでたし、めでたし」とはいかないだろう、と内心思いました。

被害者や遺族は、たとえば、目をつぶされ、歯を折られたとしたら、心の底から加害者を赦して愛したとしても、目や歯は生えて来ません。自動車の運転もできない、3Dの映画も楽しめない、ちょっとした段差で転倒しそうになる、噛み切りにくいものは食べられない…一生、ことあるごとに、いやおうなしに、傷、そして事件を思い出させられるのです。そのたびに、ゆるさなくてはならない、と自分に言い聞かせて生きていかなければなりません。

殺されかけた人たち、強姦された女性たちは、加害者の姿を一目見ることさえ恐怖でしょう。

がんばって克服して、その先にある大いなる喜びをいただくことを目指すべきか、無理せず、事件のことは避けて通って生きて行ってもよいものか、私にはまだわかりません。もしかしたら、「正解」などないのかもしれない。



## 《 被害者としての複雑な思い 》

私は、さんざん暴力を受けてまいりました。私は、暴力を正当化するようになって、相手が悪いと思ったら暴力をふるうようになったかといいますと、ごく幼い頃、弟を叩きましたので、そのとおりだったと思います。

しかし、ある程度大きくなると、私が暴力を受けたのは、私が悪い子でいやな子だったからだ、世界中で私だけが悪者で嫌われ者なのだ、と思い込み、「郵便ポストが赤いのも全部あたしが悪いのよ」という考え方しかできなくなっていました。

昨年、弁護士と牧師に助けられ、五十二歳にしてやっと親元から逃げることができました。

でも、私はすっかり暴力・暴言に慣れていて、私からひどいことを言われてもへらへらしているので、友達が怒る、悲しむ、それでも私は平気、といった状態です。逆に、最近よき友に恵まれておりますが、愛された記憶がないために、五十二年間の経験と正反対であるために、愛に拒絶反応を起こし、悩み苦しみ困り、よき友と、よき友をお与えくださった主、そもそも私を愛し、私を創り、生かして、恵みを豊かに注いでくださっている主を怒らせ悲しませ、私こそ「罪人のかしら」であると、「火の如き試み」に遭っております。

それでいて、私に暴力をふるい、暴言を浴びせた人たちは、誰一人として咎められることなく、おそらく、のうのと生きています。私は毎日S駅でS線（自殺の新名所）に飛び込むのを我慢し、主に申し訳ない思いで一杯なのに、です。



### 《 キリストの愛 》

教会は救いやすい人たちしか救おうとしない、とありましたが、その通りです。お金、暇、健康、能力などに恵まれ、問題のない人たちしか生き残れません。服装や嗜好品などなどで裁き合い、幸せ自慢、弱肉強食、勝てば官軍…。聖書の教えではなく、人の教え（ご利益宗教）、ご都合主義的・不徹底な立法主義です。

私は、四つの教会からこきつかわれた挙句見捨てられ、今はいわゆる家の教会（無牧）に身を寄せ、やっと本当の教会にたどりついた、と感じております。

キリストの身代わりの死と復活、悔い改めと信仰による完全な罪のゆるしと聖化、栄化、永遠のいのち、ふさわしくない者を愛し、愛してやっても応えることもできない者をなおも忍耐づよく愛し続ける神の愛…本気で信じていながら、自分で自分を裁き、呪い、神様に申し訳ないとまた自分を責め、嘆き悲しむばかりですが、そんな私に主の御霊はいつもこう言われます。

神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない。（使徒 10・15）

愛なんて、クソ喰らえ！！ほっといてよ！！

こんなひどい罪人の私に、イエス様はこう言われました。

わが愛する者、美しいひとよ。さあ、立って、出ておいで。ほら、冬は過ぎ去り、大雨も通り過ぎて行った。（雅歌 2・10-11）

わが愛する者よ、あなたのすべては美しく、あなたには何の汚れもない。（雅歌 4・7）

私は、私の愛する方のもの。あの方は、私を恋い慕う。（雅歌 7・10）



M  
刑  
K  
・  
J  
さ  
ん

### 《 「花を咲かせるため」 に生かされている 》

今日、三月号で「穴の開いた桶」の寓話を知り、泣きました。

なぜ主は私をお造りになり、生かしておかれるのか、それはきっと、ゴキブリやヘビをお造りになり、生かしておられるのと同じようなことだろう、と思っておりました。しかし、「花を咲かせるため」だったと知り、今また涙が溢れてまいりました。

（略）

情は人のためならず、というおり、私が悔い改めに導かれ、教えられ、恵まれております。ありがとうございます。

## 育児日記



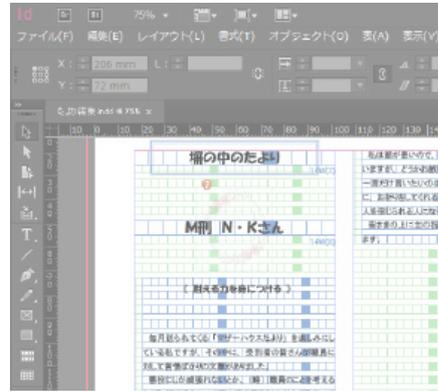
「君はプールに通い始めました。最初は「まーまー」と泣いていましたが、今はすっかり泣かずに楽しんでいます。すっかりお兄ちゃんらしくなってきた、妹のKちゃんのことでも可愛がってくれます。

先日、三人で公園に行くと、Kちゃんが一人よちよちと歩いて離れて行ってしまった時、くんが「まーま、ここにいる、Kちゃんつれてくるから!」「Kちゃんあぶないよー!」と言いながら、走ってKちゃんを追いかけてくれました。写真は、一緒に手を繋いで戻ってきたときの様子です。そんな優しいお兄ちゃんが大好きなKちゃんは、よちよちと歩きながら、くんを追いかけて一緒に遊んでいます。

## ご寄付ありがとうございます!!

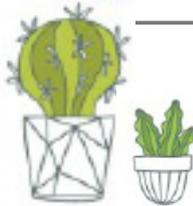


4月16日～5月15日の寄付金  
 一般寄付：264,333円  
 緊急支援：2,000円  
 愛のフリスム宣教基金：78,000円



見づらいですが…  
 マザーハウスたよりの  
 製作画面です!  
 InDesignというソフト  
 を使っています。

## 行事予定



- ▼6/15 13:00～ 東洋大学にて、講演
- ▼6/18 12:40～14:40 富山大学五福キャンパスにて、  
日本公共政策学会大会企画「多様化する依存と政策：  
嗜癖・嗜虐の理論・政策・実践の統合をめざして」
- ▼6/23 15:30～16:00 全国地域生活定着支援センター協議会にて、  
講演「人生を変える出会いの力」  
(参加者は行政関係者等90名予定)
- ▼6/24 13:00～ 聖イグナチオ教会内  
岐部ホール404号室にて、マザーハウス総会
- ▼6/26 9:00～ 日本社会事業大学にて、講演
- ▼6/28 18:00～ 池袋ワーカーズコープにて、勉強会
- ▼7/7 18:00～ 立正大学にて、APS研究会

## 編集後記



皆さまいつもありがとうございます!  
 今月号ではレイアウトに凝ってみました。読みやすくなった  
 でしょうか?

先日、「マザーハウスたよりの文章が整いすぎて、できすぎているように感じる」とご意見をいただいたので、今月号は、誤字・脱字、分かりにくい部分以外は、原文で載せさせていたいております。

「マザーハウスたより」の核心は、良い文章を載せることではなく、ありのままの生の声を伝えることでした! 「読みやすさ」にこだわるうちに、一番大事なことが置いてけぼりになっていた気がします…ごめんなさい! 初心に立ち返ります!!

というわけで、皆さんも編集局宛のお手紙は、体裁をあまり気にせずに、ありのまま文章を書いてくださればと思います。原稿をお待ちしております!

たまに編集局へ感想のお手紙が届きますが、とっても励みになっております! 編集局ではお返事は出しておりませんが、いつもじーんとしながら読んでいます。どうもありがとうございます!

イラストを大募集集中です! 来月号もお楽しみに!

マザーハウスたより 編集局

定期的にコーヒーを購入し、販売して  
くださっている教会・修道会（順不同）

＼ こちらでもお求めになれます。／

- |               |                      |
|---------------|----------------------|
| カトリック茅ヶ崎教会    | カトリック足利教会            |
| カトリック北仙台教会    | カトリック神田教会            |
| カトリック所沢教会     | カトリック松戸教会            |
| カトリック中和田教会    | 日本カトリック神学院           |
| カトリック布池教会     | カトリック戸塚教会            |
| カトリック東山教会     | カトリック桃山教会<br>(平和環境部) |
| カトリック浜松教会     | カトリック大分教会            |
| カトリック新子安教会    | カトリック西千葉教会           |
| カトリック菊名教会     | カトリック下井草教会           |
| カトリック碑文谷教会    | カトリック元寺小路教会          |
| カトリック東仙台教会    | ドン・ボスコ社              |
| イエズス会日本殉教者修道院 |                      |

ご協力ありがとうございます

マザーハウス×きしゃぼん古本募金

書籍・DVDを寄付していただくと古本募金になりマザーハウスに還元されます。詳細はマザーハウス×きしゃぼん係にお問い合わせください。

TEL 0120-29-7000  
送り先 〒 358-0053  
埼玉県入間市仏子 916

便利屋サービス《ラウレンシオ》

良心的価格で不用品処理、遺品整理、掃除などを真心こめてさせていただきます！もちろんお見積もりは無料です。この事業は「出所者の就労支援事業」の一環でさせていただいております。収益の一部は、出所者の更生改善と社会復帰支援事業に充てられます。

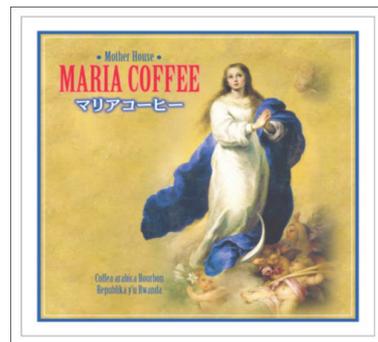
連絡先 080-4614-8508  
FAX 03-6659-5270  
MAIL lawrance@motherhouse-jp.org

★ラウレンシオとは3世紀にスペインで生まれ、料理、掃除等の下働きの中に神の臨在を見、歓喜した聖人。

—マザーハウスたより 6月号—

発行責任者／五十嵐 弘志 2017年6月15日発行

〒 130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-17-102



ルワンダ・コーヒーの栽培は、1,300～2,200メートルの高地栽培、昼夜の寒暖差と豊富な雨量に恵まれた天候、肥沃な火山灰質の土壌、パーフェクトな生

産環境で天塩に掛けて有機肥料を使用した栽培で行われています。豆は手で収穫され、完全洗浄、天日乾燥を経て、一粒、一粒、手で選別されます。それらの丁寧な作業が、ルワンダの大粒で美しいグリーンビーンズ（生豆）“アラビカ種ブルボンマヤゲイス”を生みだしています。

## 社会貢献

この商品は全て出所者が製造から販売に携わっており、収益金は全て受刑者の更生と出所者の社会復帰支援及び施設建設資金等に使用させていただきます。

マリアコーヒー購入について

ご購入の申し込みやお問い合わせは Fax、メールにてお受けいたします。

送料別

- 200g [粉・豆] …………… ¥900
- カフェドリップ（一人用）10g …………… ¥100

FAX 03-6659-5270  
MAIL maria\_coffee@motherhouse-jp.org

マザーハウスへのご支援は下記の通りです。

- ★ 郵便振替口座 00170-0-586722
- ★ みずほ銀行 新宿支店 普通口座 2376980  
口座名：特定非営利活動法人 マザーハウス  
トクヒ）マザーハウス

- 正会員（年会費）…………… ¥5,000 × 1口
- 賛助会員 …………… ¥3,000 × 1口
- 社会復帰支援 …………… 寄付

info@motherhouse-jp.org  
http://www.motherhouse-jp.org  
https://www.facebook.com/v.t.nicolas  
http://www.facebook.com/motherhouse1964

TEL 03-6659-5260